



【推薦のことば】 映画監督 安田 淳一

私が拝見したのは'23年秋の鹿王院公演で「耳なし芳一」を題材とした演目でした。

前年の壬生寺公演を見た沙倉ゆうのさん母子に「絶対に面白いから」と勧められて開演ギリギリに駆け込んだのですが、その言葉に嘘は無く、冒頭からお芝居に引き込まれ、「怖さ」とエンタメが共存した構成、また小泉八雲の物語に次期朝ドラを先取りしたような展開が加味されていて、そのオリジナリティーが強く印象に残っています。そして演者本人から直接伝わる「ゾクゾク感」が最後まで続き「怖い怖いお話」をタップリ体感させて貰いました。

のちに「侍タイムスリッパ」映画村イベントのMCをお願いした折りにお話をし、まつむらさん御当人は関西人特有の明るく気さくで楽しいキャラと知り、ひと安心いたしました(笑)

しかし、舞台上では打って変わって、鬼気迫る悪霊から剣の達人、イケズな女将や可愛い町娘まで全登場人物を巧みに演じ分け、さらに「語り」に留まらず時代劇に欠かせない「殺陣」や「所作」などの仕草を美しく決める……さすが東映京都で培われた技量は「お見事！」の一言です。

昨年、幸いにも御高評頂いた自作「侍タイ」の撮影にあたって、東映さんには多大にお世話になりました。一見コワモテのスタッフさん達ですが、それぞれ自分の仕事に誇りを持ったステキな方々で、そのスキルの高さ、知識量、現場での創意工夫、そして何より「時代劇を愛する情熱」にどれだけ助けて貰ったことか……

まつむらさんが、その伝統ある撮影所で磨き上げた演技力と女優魂で臨むステージが、面白くないはずはありません。さらに今回の新作は東映で長く「暴れん坊将軍」や「水戸黄門」などに携わった監督さんによる脚本・演出と聞いています。間違いなくオススメです。



【演者ごあいさつ】 まつむら 真弓 (東映京都)

新選組ゆかりの壬生寺さまで、祇園祭宵山の7月16日に上演させて頂く怪談朗読劇が、早くも四年目を迎えました。さらに今年は、昨年までの塔頭中院から場所を移して由緒ある「千体仏塔」内部での公演の運びとなり、お寺の皆さまには重ねて御礼申し上げます。貫主様によれば「展覧会」や「講演会」を催したことはあるが「演劇の舞台・客席」として貸し出すのは初めてとのこと……「一千体の御仏」様のお足元、尊く厳かな空間で演じる喜びを感じながら、一期一会のステージを努めたいと存じます。

【アクセス】



【千体仏塔(せんたいぶつとう)】

壬生寺の創建一千年を記念して平成元年(1989)に改築。塔の石仏は、明治期の京都都市計画の際に市内各地から集められたものである。境内には室町時代からの地藏菩薩や阿弥陀如来、大日如来など三千体以上の石仏があるが、この塔にはそのうちの丁度一千体が安置されている。

塔の形はマンマー(ビルマ)に数多く見られる「パゴタ」を模している。



【ご案内】

会場／中京区 壬生寺 千体仏塔 内部

日時／令和7年7月16日(水) ～開場13:40～

①14時～「あかずの井戸」(上演約50分)

～休憩30分～(再入場できます)

※この時間帯に境内にて別イベントあり(観覧無料)

短編演劇「新選組風想抄『風車』 by さくらさくらカンパニー」

②15時半～「彼方(あちら)の人たち」(上演約30分)

～終演予定16時10分頃～

※引続き祇園祭宵山の四条通をお楽しみください

木戸銭／3,000円(二本通し観劇料金)

ご予約／QRコードまたは
080-1115-8743

主催 京都もののけ語りの会

共催 日本史別天地
協力 東映京都俳優部



まつむら真弓「創作怪談朗読」15周年記念公演